

仙台司教区 教区事務所だより



(第 41 号)
昭和56年3月1日

“家庭を通してキリストの愛を広げよう”

◇ 3月21日に春の司牧評議会開催 ◇

仙台教区司牧評議会は、教区内の司祭、修道者、信徒各層から選ばれた評議員が、教区の宣教・司牧にかかわることからを検討し、実際の結論を出すため、毎年春秋二回催される。ことしは、来る3月21日に春の評議会がひらかれることになった。今回の評議会に提案された議題は三つ。いずれも司牧評議員会が提案している。三つの提案は次のとおりだが、それらを通して仙台教区の全信者がなにを求められているかを考えてみよう。

- ① 本年度仙台教区の司牧的年間目標「家庭を通してキリストの愛を広げよう」
- ② 信徒に与えられているカリスマの養成
カテドラル再建計画
- ③ 仙台教区では毎年、年間の司牧的目標をきめ、それなりの成果をあげてきており、ことしも年間目標を設けた。この二、三年継続して家庭を中心に考えてきているが、信仰生活

を日曜日のミサ出席だけにとどめず、信者は生活のすべてが信仰にもとづくものと考えることが大事である。問題は、観念としてはわかっているが、では具体的に何をしたらいいのか、ということだろう。ことしの年間目標をもっとかみくだいていうなら、すべての信者が、家庭の中でも（職場でも、学校でも）、カトリック信者らしくふるまうこと。やさしい思いやりのある心で、あたりのひとにキリストの愛を感じさせるよう努力することである。評議会ではそうしたことの具体的な目標や、推進の方法などを考えるが、一人ひとりの信者は自分でどうしたらキリストの愛を広げてゆけるか、自分なりに考えてみよう。現実には毎日の生活のなかで、どれほどキリストの愛とは遠い行ないや仕打ちをしていることか、その反省が第一かも知れない。私たちは毎日、「み国の来らんことを」と祈りをくり

かえしているが、神の国の実現のためには、そしてまた教会発展のためには、毎日の生活の中で私たち信者が、どれほどキリストの教えた愛を實踐しているか、がカギになる。それは疑いないことである。

②、③の議題は、①の精神のための具体的な適用ということができても知れない。これまでややもすれば信徒は、司祭から言われるままにその手伝いに終わっていた。本当はそうではなく、信徒には信徒でなければできない使徒職もあるということ。それをどのようにしたら多くの信徒が理解し、実践できるかを考える。③のカテドラル建設計画とは、仙台教区の神の民という共同体が、目に見える共同体のよりどころとして求めらるるもの、神の愛の宣教のよりどころとして求められているものをつくりあげようという願いを具体化する第一歩。以上の議題は仙台教区の全信者が深い関心を寄せるべきものである。

司教様の日程

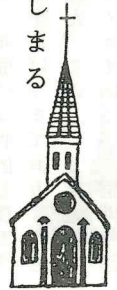
(二月十日現在)

- 3月9日 司祭評議会(元寺小路)
- 10日 社会福祉法人理事会(教区事務所)
- 11日~13日 東京大神学校常任委員会
- 16日~19日 司教協議会財務小委員会
- 20日 白百合短大卒業式
- 21日 司牧評議会
- 25日 聖ウルスラ修道会誓願式(一本杉)
- 30日 教区司祭団月例会



元寺小路教会

大修理はじまる



仙台教区の司教座聖堂である元寺小路教会の聖堂は、昨年の秋ごろから内部の西側の壁がはげ落ちたり、雨もりがひどくなつたため、専門家に頼んで総点検してもらつた。その結果、先年の宮城県沖地震の影響もあつて、壁に大きな亀裂が出来ており、このまま放置できない状態にあることがわかつたため、このほど聖堂の大修理にとりかかつた。

修理工事の内容は、外壁亀裂部、軒先、煙突および窓まわりのモルタル補修、それに、コーティングと鐘楼までを含めた全外壁のアクリルシン吹き付けなどで、工事総額は、約二百三十万円と見られている。しかし、それでも、聖堂の耐用年数をあまり延ばすことは出来ないといわれている。

修理工事は目下進められ、高い鐘楼まで足場が組まれており、信者は、一日もはやく、神の家、祈りの家の修理が完成することを願っているが、その願いは、新しいカテドラル建設の願いにも通じているようだ。

キリスト教一致のために

各地で集会

キリスト教一致祈禱週間の集会が、今年も各地で行われたが、仙台と青森から、次のような報告があつた。



△仙台▽ 仙台では、1月19日(日)、カトリック元寺小路教会と、1月25日(日)、日基仙台北記丁教会の二教会において、合同祈禱会が開かれた。

元寺小路教会では、バプテスト教会の甲原一牧師(尚綱女学院院長)が説教。「聖書に聞く一人一人が、みことばに出会い、教えられ、復活のキリストに出会つたペトロのように、『はい、主よ、私はあなたを愛しています』と答え続けていきたいと話された。

1月25日の外記丁教会では、カトリックから三浦平三師が説教。まず、キリスト教一致についての基本的な姿勢を説き、ついで、すべてのキリスト者に与えられた「行きて万民に福音を宣べ伝えよ」との主から受けた福音宣教の使命について語られた。そして、この仙台のキリストを信じるすべての人々が協力して何か一つの事ができないだろうか、と結ばれた。

なお、両会場とも60数名の参加者があり、親睦会では、お互いの再会を喜び合つた。

△青森▽ 青森市内のキリスト教協議会では、信仰一致祈禱週間の最後の日、1月25日(日)、日本キリスト教団・長島教会において、合同祈禱集会を開いた。

市内カトリックの教会、プロテスタント6教会から68名が出席。今年のテーマにそつて共に祈り合つた。祈禱会の後、例年のように親睦会が開かれ、2月に訪日される教皇様の話題が出るなど、なごやかなひとときを過ごした。

召し出しを考えよう

△青森県・小学生練成会▽

去る1月13・14日の両日、青森市内の教会が中心になって、小学生4・5・6年男女を対象に、「召し出しについて」のテーマで練成会が行われた。

雪深い青森では、三学期の授業開始の日も遅い。冬休みを利用してこの練成会に、青森市内をはじめ、五所川原、黒石、十和田教会からも参加し、合計30名の小学生が会場の浪打教会に集まつた。

第一日目は、祈り、自己紹介が始まり、皆でもちつきをして楽しいひとときを過ごした後、弟子達の召し出しについて、聖書を通して学んだ。子供達の中には、神父様は、生まれた時から神父様だったかのように思い、自分達が神父様やシスターになれるとは思ってない子供もいる。グループに分かれての話し合いで具体的な問題が出された。

夕食は、女子は、暁の星修道院の食堂で、シスター達と一緒に、男子は、司祭館で神父様と一緒に食事をし、ちよっぴり修道院の生活を味わつた。

二日目のミサでは、司祭、修道女、カテキスタがそれぞれ、なぜ教会に奉仕する道を選んだか、自分の召し出しの出發について話し、子供達に深い感銘を与えた。

召命を目的としたこの種の練成会は初めてであつたが、子供達から、またやってほしい、との声もあり、関係者を喜ばせている。

十一
Sr. マリア・ステラ (聖ドミニコ会)

交通事故で急逝 ……



去る2月8日午後、聖ドミニコ女子修道会
仙台天使園修道院(仙台市角五郎2の2の18)
のマリア・ステラ高橋みち修道女が交通事故
のため、急逝した。六十八歳。

同日午後3時ごろ、特別老人ホーム暁星園
を訪問して修道院に帰る途中の出来ごとで、
バスを降り、道を横断中にバイクにはねられ、
意識不明のまま同夜おそく亡くなった。

高橋修道女は、明治45年に仙台市の篤信の
家庭に生まれ、昭和7年に聖ドミニコ女子修
道会に入会。以来四十八年におよぶ修道生活

昨年12月28日から3日間、岩手カトリ
ック・センターにおいて、岩手県内高校
生の集いが、県内6教会と八戸からも参
加者があり、38名の高校生が出席して開
かれました。

合宿のテーマは、「日々の生活において
の愛の実践」で、花巻教会出身の平賀神
父様の指導のもとに、ディスカッションを設
け、テーマに添って話し合いました。

愛の実践と一言で言うが、とてもむず
かしい。私たちは、まず聖書を読まなけれ
ば本当の愛とは何かわからないという事
に気づきました。そして、そこから得たこ
とは、「友人のために命を捨てるほどの大
きな愛はない」という事でした。そこま

岩手県高校生の集い

熊谷由香・教会家四ツ



を全うした。一貫して同会事業の養護施設・
天使園のために尽くし、その人柄と働きは、
修道院や教会関係者だけでなく、一般の人々
からも尊敬をうけ、評価された。

葬儀ミサは2月11日午前10時から、同修道
院聖堂で深沢守三神父の司式で行われ、同修
道女を慕い惜しむ人々が満ちあふれた。その
あと、遺骨は、同会シスターたちの歌うサル
ベ・レジーナのうちに、仙台市鶴ヶ谷の同会墓
地に納められた。

人事異動

1月26日付



△二本松教会主任(飯野巡回教会を含む)

パウロ・ヤノチンスキー師(松木町助任)

でいけるためには、「最も小さな者にした
ことは、私にしたことである」とのイエ
スのみことばを実行すること、私達の
生活の中に生かそうと話し合いました。

また、私達は、日常生活で「感謝する
こと」を忘れていることに気がつきまし
た。私達の身边には、あたり前と思ってい
ることも、改めて考えてみると、感謝す
べきことは数限りなくあったのです。

この高校生の集いで、皆と話し合い、
共にスポーツに興じたり、ロソックの火
を見つめて、全員が「愛」の大きさ、深
さを考えるなど、大きな感激をもって過
ごすことができたことを、神様に心から
感謝しています。

*おたより…
…「ホーレンシュタイン神父様より」…

皆さん、いかがお過ごしですか。

私は、昨年クリスマス前の準備に入ると共に、
盛岡・ドミニカン修道院から、志家のベトレ
ム会本部に移りました。

そして、この3月、また転勤します。
私は、ベトレム会の神父の働いているド
イツの教会に行き、手伝いをします。

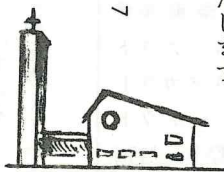
そこで四千人の信徒のお世話をしながら、
南ドイツ地方の教会をまわって、外国宣教の
P・Rのため働きます。

皆さんから別れることはつらいですが、新
しい道に入って、また神様のお恵みがあると
信じています。そしてまた、どこかでお会い
できるかも知れません。

皆さんからいただいた御好意を感謝して、
皆さんのためにお祈りいたします。

3月からの住所

Hans Holenstein
Beethenstrasse 7
7053 Kernen
West Germany



ケルネンの教会

笑顔

小さな男の子のいのり

「神さま、どうぞ、ビタミンを、全部、アイ
スクリームやケーキやチョコレートにお入
れください。サイインゲンやニンジンには、ぜ
んぜん入れないでください。」

(浪打だよりから)



創立当時

(炬火昭和10年12月1日号参考) 八戸教会は、明治30年頃、二、三人の信者のために、函館司教ベルリオーズ師、青森のフォーリー師、弘前のモンジュ師、レノ師等が、代わる代わる布教巡回に來られ、当時廿八日町に住まいしていた仙台人、三味線師石村作兵衛(本名山下敬三郎)夫妻の二階に仮聖堂を設けられたのが、そもその始めである。

明治42年、現在の教会敷地を買収、44年早春、さっそく教会建築に着工、同年5月竣工した。一九三〇年、今までバリ外国宣教会管轄の函館教区は、聖ドミニコ会修道院(カナダ管区)に移され、八戸教会もドミニコ会のデヌマ師が主任となる。一九三二年イメルダ幼稚園創設。一九三三年和洋裁縫女塾(現在の白菊学園)を白石女史から譲り受け、教区長管轄となる。なお、大正13年の八戸大火の際は、全町ほとんど烏有に帰したが、聖堂、及び伝道士の住宅のみ類焼の厄を免れ、奇跡のように思われた。

現在の信徒数

約160世帯、293人であるが、

常時ミサに出席するのは150人位である。

教会の地理的位置

八戸市の繁華街より、バス停二つ目の停留所。歩いて10分位の距離に位置して表通りに面している。教会付属のイメルダ幼稚園(八戸で二番目に古い)を経営している。隣接して聖ウルスラ修道院があり、その中には文化センターがあり、種々の布教活動をしている。

教会内の種々の活動

自慢できるのは、信徒連絡協議会が、毎月一回以上開かれ、もう二百回にふらんとしている。すべて記録簿に記録されており、計画を立てる場合にも参考にするため、円滑に運営されている。信徒会活動機構図は下のとおりである。

最近渡辺師の活躍で、中・高校生会が張り切って種々の方面に活躍している。

教会共同体として力を入れていること

聖堂建設のため、一致団結して資金獲得のために種々の事業をしている。

映画会、廃品回収、バザーの三大事業で、現在約千三百万円集めた。

又、日曜日のごミサの締めくくりとして、「塩町教会建設のための祈り」をしている。

主任、助任神父様の横顔

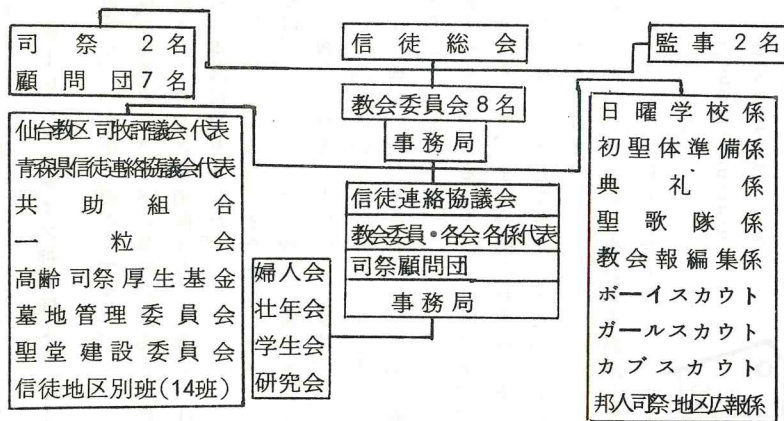
主任司祭は、児山六七男師。福島県会津田島の出身。カナダ・ケベックで叙階。函館元町教会を振り出しに、岩手県以外は、仙台教区各県に赴任。趣味は植木いじりとのこと。

学者膚の学究に生きる人で、相当な研究がなされているという、うわさである。先日、ガスバリ・パチカン駐日大使が来八された時、

流ちょうなフランス語で挨拶された。

助任渡辺彰宏師は、福島県郡山市の出身。小神学校から大神学校への途中、ペンキ屋の仕事をし、その道のベテランである。八戸へ来て三年目である。若い人々に大変信望熱く、きびしさの中に指導力よろしきを得て、日曜学校・中・高校生会を盛り上げている。目下、白菊学園高校でも宗教を教えている。

八戸・塩町教会信徒会活動機構図



お知らせ



◎黙想会

信州から2年ぶりに押田神父様をお迎えして、左記の黙想会を催すことになりました。お知り合いの方と、お誘い合わせのうえ、参加いただければ幸いです。

記

- 主題 「遠きながめはたのしきかな」
- 指導 押田成人師(ドミニコ会)
- 日時 3月20日(金)夕食/22日(日)昼食まで
- 会場 聖ドミニコ会愛子黙想の家
- 会費 五千円
- 募集人数 20人(定員になり次第締切らせていただきます。)
- 申込方法 所定の申込書にご記入のうえ会費を添えてお申し込み下さい。
- 主催 980仙台市連坊小路三五五 思想庵 渡辺 清気付

◎聖書のつどい

- テーマ 「ぶどうの木のとえ」
 - 日時 3月15日(日)、午後2時~4時
 - 対象 高校生以上の男女
 - 会費 無料
 - 場所 仙台市角五郎二一二十四 聖ドミニコ女子修道院
- ◎ 仙台・教会学校教師会研修会
毎月勉強会を開いている仙台の教会学校リーダーの一日研修会を行います。これか

どくしやのへえじ

障害者の方々の
社会参加に協力しよう!

小名浜教会 古田繁男

今年は、国際障害者年です。健康な人は、障害者をあわれんだり、同情して必要以上なお節介を焼いたりして、それが親切だと思っているようですが、かえって迷惑な場合が多いといわれます。

身障者の方は、仕事の面でも、社会生活の面でも、普通の人と同じ取り扱いを受ける事を希望しています。勿論困っている時助けるのは当然ですが、よく相手の気持ちを確かめてからにしたいものです。

身障者の方が働く場合、職場の受け入れ態勢が整っていない、設備にも問題があり、大変なようですが、私達の身近に適當な処があれば、仕事のお世話をしたいものです。

先日、NHKテレビで、23歳のサリドマイド児で手のないお嬢さんの記録が放

らリーダーになろうとする方も含めて、御参加下さるよう御案内申し上げます。

- テーマ 「主の死と復活」
 - 指導 今野東志男師
 - 日時 3月29日(日)(ミサも含みます)
 - 場所 YBU文化センターの予定
- 詳細は、各教会の教会学校の先生、又は、教区事務所・Sr小川まで。

映され、見た方も多いと存じます。足を手と同じように使ってなんでもやられます。その上、中学、高校、短大と、普通の人と同じに受験し、学校生活を送り、イギリスのペンフレンドを訪問したり、本当に明るい生活でした。周囲の人も、重い物を運ぶとか、本当に必要な時にしか手を貸しません。

この方を見て感じたのは、子供の時から本当に明るくのびのびしている事です。自分が身障者である事を全然苦にしていない、自分の与えられた運命を素直に受け入れ、手の代わりに足があるさ、うまくいかない時はいろいろ工夫し解決するさ、という調子です。

この方に宗教心があるかどうか知りませんが、神の御旨に従って、立派な生き方をなさっていると思います。又、御両親や、学校の友達、先生方、周囲の方々も当人の自立心を見守り、立派に成長させて下さった事に頭が下がります。私達もこのように生きたいものです。

【編集後記】

* 行きなれた道に別れをつけ新たな門出を迎える春。希望と不安を抱きながらも一つの決断を下す人間の英知。洗礼志願者のために特に祈ります。

仙台司教区事務所だより41号
昭和五十六年三月一日発行
発行所 仙台司教区事務所
980仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371